

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2014.3 Vol.114



6号館より北アルプスを望む



ハナノキが芽吹きはじめた
フォーラム

特集 短期大学の 新たななる挑戦

..... P.02

- 「大学COC事業」による最近の取り組み
「ローカルとグローバル」をテーマに、6回の公開講座を諏訪市で開催 P.04
- 卒業研究・卒業論文発表会、大学院修士論文審査発表会 P.06
- 平成26年度から「公務員試験対策講座」を開講 P.10
- ハラスメント防止に向けて —ハラスメント防止委員会の取り組み— P.13
- 教職センター9年間の取り組み P.14 ほか

短期大学の 新たな挑戦

近年、高等教育機関である4年制大学および短期大学には社会から、「社会人基礎力の養成」、「グローバル人材の育成」が求められてきています。この要請に応えるために、それぞれの大学、短期大学は、従来からの専門教育、教養教育に加えて、この2つの観点からの教育を導入してきています。大学とりわけ短期大学にとっては、これまでの教養教育に加えて、この2つの社会的養成に適う教育こそがまさに、専門学校には真似のできない短期大学ならではの教育であり、専門学校との違いを明瞭化する上で、短期大学教育の独自性を打ち出す重要な視点となってきています。ここではこの短期大学教育の特色と、本学の取り組みについてご紹介します。

松商短期大学部長 山添 昌彦



短期大学における「学び」

短期大学は、2年間という時間的制約の中で、社会人として必要不可欠な実践的能力の育成を目指しています。この実践的能力には、それぞれの職業の基礎となる専門の知識および能力(資格)、対人関係を円滑にするコミュニケーション能力、社会のグローバル化に対応する外国語の能力などが含まれ、これからの実社会で生きていくために不可欠な能力です。4年制大学が4年間をかけて専門分野をアカデミックに学び、専門学校が一つの専門分野(資格取得)に特化した教育を行うのに対して、短期大学は、専門知識・資格、ビジネスの実務、外国語を含むコミュニケーション能力を効率的にバ

ランス良く学ぶという特徴があります。短期大学の2年間というのは、4年制大学の4年間に比べれば「忙しい」と感じる人もいますが、見方を変えれば「充実している」と言えます。また、専門学校のような「単一分野の学び」に比べれば、「幅広い学び」を通した汎用能力が身につきます。

今、多くの企業が採用試験の際に重視するポイントとして「コミュニケーション能力」「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」といった「社会人基礎力」を挙げています。言うまでもなくこれらの能力の前提として、専門知識や専門資格を持っているということが条件になります。短期大学では、教養

2年でバランスのある実力がつのが短大

4年制大学

専門分野をアカデミックに学ぶ

教養

専門分野

資格

短期大学

3つの分野をバランスよく身につける

教養

専門分野

資格

専門学校

一つの分野に集中する

教養

資格

企業が求める人材とは？

専門知識
資格取得
など

社会人基礎力*

- ①前に踏み出す力
- ②考えぬく力
- ③チームで働く力

実社会で役立つ力を身につける!

●ゼミ活動 ●学友会活動 ●アルバイト ●サークル ●インターンシップ など

※社会人基礎力とは、経済産業省が提唱する「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のこと。

を身につけながら専門分野を学び、資格を取得し、さらにゼミナールや課外活動、地域活動を通して企業が求める「社会人基礎力」を着実に養成しています。このことが、4年制大学に引けをとらない就職実績となり、また、専門学校に比べて幅広く質の高い就職実績となって現れてきています。

短期大学の2年間は、高校卒業後から社会人になるまでの精神的・知的・人間的成長を最も実感でき、それに裏付けられた自信が持てる密度の濃い2年間であり、就職の面からは、最も効率良く最大限の成果の出せる2年間であると言えます。

「可能性」を広げ、「未来」を描く。学び方は自由自在。

松商短大は、自由で、楽しく、充実した時間を過ごすためのあらゆる環境を整えています。ただ、それを実感できるかどうかは、学生たち一人ひとりの心の持ちようにあります。「イベントに参加するorしない」、「授業を選択するorしない」、それは誰に強要されることなく学生自身が自分で決



めること、つまり自由なのです。松商短大は、60年を超える長い歴史を通して常に、「積極的に楽しみたい」、「充実感を味わいたい」と思っている学生に、最大級の満足を提供し続けています。卒業を間近にした多くの学生たちが「楽しかった」とか「卒業したくない」といった言葉をよく口にするのは、その満足度の現れです。

人は無限の可能性をもってこの世に生まれ、誰もが幼い頃、自分の未来について様々な夢を描きますが、残念ながら多くの人は、成長するにつれて、少しずつ自分の可能性を狭めていってしまうものです。松商短大

は、そんな学生たち一人ひとりの可能性をもう一度広げ、「学び」を通して、「新たな夢」を持てるように、バラエティー豊かな「学びのフィールド」を用意しています。たとえ今、自分の将来を描ききれていない人でも、本学の多種多様なフィールドで学べば自分の未来が必ず見えてきます。これが、「この短大に入学して本当に良かった」と思ってもらえる大きな理由の一つなのです。

多彩なカリキュラムを自由自在に活用し、自らの可能性を広げ、満足度100%の学生生活をおくり、充実した未来を描く、それが松本大学松商短期大学部なのです。

興味・目標に合わせて学べる多彩な17フィールド



松商短大のカリキュラムは実に多彩です。あらゆるビジネスの基本となるフィールドはもちろん、「医療事務」、「図書館司書」、「福祉」、「ブライダル」、など幅広いビジネスシーンに対応した学びをいくつでも選択することができます。欲張って勉強することで、確実に将来の選択肢を増やすことができるのです。また、1年前期・後期、2年前期の各定期試験において、優秀な成績を修めた上位10名の学生に対して、1人10万円の学費免除支援を行っており、この

制度を勉強の励みとし、多くの成果を得てほしいと願っています。

ゼミナールでは、自分でテーマを決めて研究に取り組みます。自ら考え、行動したり、地域で実践的な活動を行うことで、コミュニケーション能力などの社会人基礎力が身につきます。教員と学生の距離が近いのは松商短大の大きな特徴ですが、とりわけゼミ担当教員は勉強や就職に限らず、あらゆる相談を持ちかけられる頼もしい存在です。

取得した資格は大切な財産に

17フィールドの学びは、資格に直結しており、36種類以上の資格に挑戦できます。そして、取得した資格の難易度に応じて、1人ひとりに奨励金を支給しています。昨年度、日商簿記検定2級、FP技能検定3級など、2年間で20個の資格を取得することができた学生の獲得した奨励金は、101,970円にもなりました。経済的なメリットを得られることもさることながら、資格は財産になり、いざというときに味方になってくれるはずですよ。

▶興味・目標に合わせて多彩に学べる17フィールド

- 松商ブランド基礎 ●経理会計 ●情報専門 ●経済・金融 ●経営・法律 ●国際コミュニケーション
- 留学生 ●研究活動(ゼミ) ●進路支援 ●医療事務 ●図書館司書 ●ファッションビジネス
- 芸術と文化 ●ブライダル ●心とこども・福祉 ●介護(旧ホームヘルパー) ●スポーツ・健康

PC・iPadを活用した双方向型授業

現代社会は情報通信技術(ICT)が急速に発達し、インターネット等を通じて世界の人々は相互の結びつきを強めてきています。このようなICTを介したグローバル化の中で、今後の日本社会を担う人々にはICTを上手に活用する能力が求められています。そこで、本学では、ICT



を活用する能力の向上と本学の教育成果を最大限に引き出す

ため、本年度からiPadを活用した教育を開始するとともに、来年度からは携帯型PCを学生一人ひとりに持たせ、本格的なICT教育を展開します。このICTを活用した教育では、授業前学習で講義DVDの視聴や問題演習、授業でのグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング、そして授業後学習では従来の「メモ力育成」の取り組みなどの双方向型授業を展開することで、学生の様々な能力、特に社会人・職業人として必要不可欠な実践的で応用可能な能力(コンピテンス)を高める教育を展開します。

短大・保護者・卒業生で がっちり組まれたスクラム

就職氷河期とかリーマンショックとか世間で言われても、ほとんど関係ないのではないかとと思われるほど松商短大では企業から内定をいただいています。というのも60年の歴史の中で多くの優秀な人材を輩出してきたおかげで、今度はその卒業生たちが松商短大生に限定して求人票を持って来てくれるからです。また、キャリアセンターが中心となって、入学前からキャリア教育が開始され、入学から卒業まで一貫してキャリア・クリエイト、キャリア・スタンダード、全教職員を投入しての「集団面接練習」、個別企業を意識した面接対策、輝いている履歴書を作成するための自己分析講座など、就職試験対策および就職後のケアにも余念がありません。さらには、就活解禁前に開催される保護者就職説明会には150名もの参加があり、保護者の心温かいバックアップのもと、学生は安心して就職活動を展開できる環境が整えられています。

グローバル人材育成教育

企業活動がグローバル化して他の国々との取引が増えるにしたがって、英語は国際共通言語としての役割を果たし、日本の企業の中にも社内言語は英語にする企業が増えてきています。また、観光立県を目指す長野県にとっては、外国人観光客の増加に対応した英語のできる人材育成が急務になっています。さらに、少子高齢化社会においては労働力を海外の労働力に頼らざるを得ず、今後は様々な分野で外国人労働者が増加することも想定されます。このようなグローバル化した社会においては、英語等の言語



ができるだけでは不十分で、多文化共生社会に対応した異文化コミュニケーション能力を有するグローバル人材の育成が不可欠です。そこで、本学では、ネイティブの先生との双方向型授業(Interactive English)、留学生などの外国人が参加するプログラム(Active Learning)、そしてICTを活用したe-Learningなどを有機的に結びつけた授業を展開する「国際コミュニケーション・フィールド」を開設します。





文部科学省

地(知)の拠点

大学COC事業

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の採択を受けての取り組みの一部を紹介します。

「ローカルとグローバル」をテーマに、6回の公開講座を諏訪市で開催

諏訪市を含む南信地域は、精密機械産業を中心として中国やタイなどの東南アジアに進出している中堅・中小企業が多い地域です。これは、長野という地方(ローカル)であっても、海外での業務展開(グローバル)により利益を確保している企業が増えてきている現れでもあります。また、このように、ローカルから国境や県境を越えてグローバル化している主体は「企業」だけではなく、スポーツ選手や学生などの「人」も含まれるでしょう。そこで、第1回から第3回までは「人のグローバル化」、第4回から第6回は「企業のグローバル化」という視点で公開講座を実施しました。残念ながら記録的な大雪のため第2回と第3回の講演が中止となり、全4回の講座となってしまいましたが、聴講された方々からは「中止した



短期大学部教授 糸井重夫

2回の公開講座も実施して欲しい」との意見もよせられ、盛況のうちに終えることができました。

第1回の安藤美香氏は、高校卒業後中国に渡り、中国の大学・大学院で水墨画を学び、日本人で初めてこの分野で博士号を取られた長野県出身の方です。講演では13年間の中国留学を通して感じたこと、得たこと、留学の魅力などについて話されました。また、講演後のワークショップでは、安藤先生の指導の下、聴講者が色紙に水墨画を描き、水墨画の難しさ、奥深さを感じながらその技法を楽しみました。

第4回は、21世紀のグローバル社会に対応できる人材育成について、「コンピテンスの育成」や「知識を活用」する教育が求められていることなどについての内容でした。

第5回では、地元企業の中でもいち早くグローバル化に乗り出し、業績が伸びている株式会社イースタンの社長、中桐則昭氏をお招きしました。講演では、半導体、電子部品市場の特殊性や同社のグローバル戦略、さらには同社が求める「人材」について話をされました。

また、この第5回の公開講座で



は、本学の住吉廣行学長も登壇し、「グローバル社会と大学教育」というテーマでシンポジウムも行いました。中桐社長からは、「組織を動かし、新たなジャンルにチャレンジし、海外に積極的に出て行ける人材」が求められているとの話があり、住吉学長からはご自身の体験談を踏まえたグローバル人材育成の在り方や、本学の教育手法についての話がありました。そして、根本的には、各自が日本人であることに「自信」を持つことが大切で、そのために一生懸命勉強し、様々なことに挑戦していくことが重要であるとの意見でまとまりました。フロアーからも様々な質問や意見が出、白熱した意見交換の中で終了しました。

最終回の第6回では、本学総合経営学部の兼村智也教授が、長野県企業の海外進出の現状や、現地調査による県内企業の実態について講演しました。長野県の中堅・中小企業の海外進出がここ10数年で急速に進んだこと、進出先が中国からASEAN諸国に移ってきていること、さらには留学生も含めた人材育成が重要なことなどが語られました。

本学は、地域の大学として、地域企業や地域社会が求める人材育成を責務と認識しています。今回の公開講座を通して、直接グローバル「企業」やグローバルに活躍する「人」の考えを聞くことができ、本学の教育活動に活かしていくべきだと強く感じました。

	日時	会場	講師	講座タイトル
第1回	2月1日(土) 14:00~16:00	諏訪 商工会議所	安藤 美香	中国留学を通して見えた水墨画の魅力 (ワークショップ)水墨画を通じた文化交流
※第2回	2月10日(月) 18:30~20:30	スワプラザ	尻無浜 博幸	ローカルからはじまり ~東日本大震災支援活動の現状~
※第3回	2月15日(土) 14:00~16:00	諏訪 商工会議所	等々力 賢治	なぜ、スター選手は海外に行くのか?
第4回	2月24日(月) 18:30~20:30	スワプラザ	糸井 重夫	キャリア教育からグローバル人材育成へ
第5回	3月1日(土) 14:00~16:00	諏訪 商工会議所	中桐 則昭	我が社のグローバル戦略と求める人材 (シンポジウム)グローバル社会と大学教育
第6回	3月8日(土) 14:00~16:00	諏訪 商工会議所	兼村 智也	グローバル化と長野県企業

※第2回と第3回は大雪のため中止となりました。

特別講演会

「妊産婦の栄養・糖代謝異常妊娠と関連して」開催

大学院健康科学研究科 教授 山田一哉

昨年12月14日、「大学COC事業」の一環として、東北大学病院産科長・特命教授 杉山隆氏による「妊産婦の栄養・糖代謝異常妊娠と関連して」の特別講演会を開催しました。

氏は「妊娠糖尿病」分野の日本での第一人者であり、日々、周産期医療の現場でご活躍であるとともに、厚生労働省により報告される「日本人の食事摂取基準」を策定する委員会のメンバーでもあります。学内の教員・院生・学生に加えて学外からも20名を超える参加者があり、総勢60名ほどの



聴衆を前に、妊産婦の栄養状態の問題点や評価の裏話など、ジョークを織り交ぜながら、楽しい講演をしていただきました。講演後もフロアとの間で活発な質疑応答が繰り広げられ、予定の時間を大幅にオーバーして講演会は終了しました。

特別市民公開講座

「オシッコのことで困っていませんか？」開催

大学院健康科学研究科 教授 江原孝史

昨年12月21日、本学5号館において大学COC事業の一環として松本大学大学院主催による表記の特別市民公開講座を実施しました。講師は、東京大学コンチネンス医



学講座特任教授の井川靖彦先生にお願いしました。コンチネンスとはなじみのない英語ですが、禁制と訳され失禁の反対の意味です。当日は中信地区を中心に80名ほどの参加者がありました。70代の参加者が最も多く、40歳以上の日本人女性の場合3分の1が経験しているという尿もれ、男性の前立腺肥大に伴う排尿障害など、オシッコにかかわるさまざまな問題とその解決策、薬物治療、手術について具体例も交えながらわかりやすく解説していただきました。講演終了後には質問が相次ぎ、悩んでいる人の多さを実感しました。

「地域スポーツ」を考えるシンポジウム・セミナーを開催

スポーツ健康学科長 吉田勝光

●シンポジウム

「地域スポーツジャーナルと地域スポーツ」

去る1月14日、長野県内で次々と創刊されている地域のスポーツ専門ジャーナル各紙・誌の編集長らが本学にて一堂に会しました。創刊の経緯や理由等の報告を受け今後の地域スポーツジャーナルの展望について、シンポジウムを開催しました。参加ジャーナルは、「信州野球専門誌ナインズ」、「長野体育ジャーナル」、「スポカラ」、「ありがと!N(ながの)sports」で、「上田スポーツプレス」は報告者の荒川玲子氏(うえだミックススポーツクラブ)からご紹介があり

ました。各編集者からは、編集者らの交流の機会となった、と感謝されました。大学だからこそできたイベントなのではないかと感じました。



●セミナー

「長野県の総合型地域スポーツクラブと大学との協働」

今季2度目の大雪に見舞われた2月14日午後、本学515講義室にて、総合型地域SC関係者を始め、多数のご参加をいただき開催されました。まず、コーディネータ役の吉

地域の “健康づくり・人づくり” を考える

元オリンピック日本代表 高橋千恵美氏
講演会と活動報告 開催

地域健康ステーション所長・健康栄養学科長
廣田直子



大雪の2月14日、シドニー五輪等で活躍された元陸上長距離選手の高橋千恵美氏をお迎えして、COC事業の公開講座が開催され

ました。本学地域健康支援ステーション卒業後フォローアップ研修会と本年度の教育企画推進事業も兼ね、高橋氏の講演に先立ってDVDとポスターにより地域健康支援ステーションの活動成果を報告していただく機会となりました。

高橋氏の講演テーマは「アスリートから管理栄養士を目指して」。アスリートになるまでとトップランナーとして活躍されていた間に感じてきたこと、またセカンドキャリアとして管理栄養士を目指した中での思いなどを語っていただきました。高橋氏のお人柄によるのかフロアは温かい雰囲気になり、学生からの質問にも丁寧な答えをくださるなど、参加者の心に素敵な何かが残った講演会でした。

田が三者連携協定(昨年、1月に長野県総合型クラブ連絡



協議会・松本大学・長野県体育センター間で締結)後の成果等の報告をし、次に新潟医療福祉大学で最近総合型地域スポーツクラブを設立された西原康行先生から、その経緯等の説明をしていただきました。その後、田邊愛子研究室が現在関わっている富士見町地域SCの葛城明美氏から状況報告があり、引き続いて、本学田邊講師及びゼミ生(中村悠陽君、北村桃香さん)が実践報告をしました。セミナー後、本学が具体的にどのような支援をしているかが明確となった、等の感想が寄せられました。

卒業研究・卒業論文発表会

大学4年間、短期大学2年間の研究活動の成果を発表する「卒業研究・卒業論文発表会」が各学部、学科において行われました。

総合経営学部 総合経営学科

4年間の成長が伺える 堂々たる卒論発表会

総合経営学科教務委員 葛西 和廣

12月20日、今年度の卒業研究発表会が行われました。会場となった512教室には4年生を中心に後輩の2・3年生が集まりました。特に、2年生は次年度のゼミ選択の参考にするため多数の参加となりました。開始時間前から室内は熱気に包まれ、発表する学生たちの緊張は高まり、その緊張を紛らわすかのように直前まで発表内容に目を通し集中する学生の姿もありました。

当日の研究テーマは別表にある通りです。総合経営学科では、「経営」、「経済・金融」、「情報」を中心とする5件の発表が行われました。生活協同組合の仕組みや消費者の行動、ドロップシッピングを利用したネットショップの作成、中華料理店における中国人従業員の実践的活用に関する事例研究、シェールガスの特質とシェールガスが日本のエネルギー政策に及ぼす影響、男性の育児・家事への参加の特質と女子学生の望む働き方の課題分析など多彩な研究発表が行われました。入学当時の学生の姿を思い浮かべながら、堂々と発表する学生たちの姿に4年間の研鑽の成果が伺えました。苦勞

しながら研究をまとめ、発表を行ったことを学生時代の良き思い出と自らの自信として社会に巣立って欲しいと強く願う発表会でした。



氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
赤沢あゆみ 大澤 和恵 勝澤 紗希	葛西	生活協同組合と消費者行動に関する研究
栗津原 准	小林	ドロップシッピングを利用したネットショップの作成
宮嶋 英樹	上野	外食産業における外国人労働者の活用 ～家族を大切に「好運来」～
新羽 勇樹	葛西	シェールガスの特徴と日本のエネルギー政策への影響に関する研究
武川 哲也 橋爪 萌 米窪 翔平	上野	男性の育児・家事への参加の特質 ～男女の違いから見たそれぞれの特徴と提言～

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

「観光」「福祉」「地域」と バリエーション豊かに!

観光ホスピタリティ学科教務委員 尻無浜 博幸

12月20日、今年度観光ホスピタリティ学科の卒業論文発表会が行われました。この日発表を行ったのは5つのゼミを基盤とした6つの研究で、学科の特徴を活かしたバリエーション豊かな内容となりました。

観光の要素では、安曇野ワインの実態調査から若者に好まれるワインの製造販売の提言が試みられました。提言には、原産地呼称制度を活用した工夫された根拠が示され時間をかけて研究を積み重ねた様子が伺えました。またEV実用化による松本市の新たな観光開発の研究は、新たな観光資源を発掘できる可能性を感じるものでした。

観光と福祉を融合した観点から、2つの研究が明らかになりました。1つはインバウンド、浅間温泉のバリアフリーの現状と提案、もう1つは、アクセシブル・ツーリズムのガイドブック作成による取り



組みです。実際に足で稼いだ調査に説得力があり、聴講していた後輩の関心度も高かったように思います。

地域の要素では、食と人をつなぐと題し、買い物弱者の問題にア

ンケートを実施するなどして課題を整理し、引き売り行商や展開中である上土街づくりの取り組みの報告がなされました。

4年間の学びの中から疑問を持ち、そして課題を明らかにし、その課題に対して学生なりの取り組みがどの発表にも明確に示されていました。一つのけじめになったのではないかと発表を聞いていてふと感じました。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
梨子田純輝	尻無浜	合理的配慮を意識した「アクセシブル・ツーリズムガイドブック」の作成
鎌田 涼花 上條 裕文 塩原 里佳 中村 崇志 西原 知美 丸山 一輝 柳澤 秀幸 渡邊 倅	増尾	浅間温泉におけるバリアフリーの現状と提案
高山 唯子 筒井 啓介	佐藤(博)	松本市におけるEVの実用性
赤池 大樹 飯島 麻衣 清水 直樹 下原 佑基 高橋あかり 幅 宏彰 増野 祥子 丸山恵理香 丸山 麗 村上 大 山本 吉徳 塚田 愛美	白戸	食と人をつなぐ
上原 峻雅	佐藤(博)	こだま～れin 2013
佐野かれん 松澤 拓実 桑原 拓末	益山	安曇野ワインと長野県原産地呼称制度 ～若者に好まれるワインの製造・販売への提言～

幅広いテーマが並んだ 健康栄養学科 卒業研究発表会

健康栄養学科教務委員 小西 香苗

今年度も健康栄養学科の卒業研究発表会が、12月23日に開催されました。3年次より研究室に配属され、2年間に渡って指導教員のもとで研究やゼミナール活動を行ってきました。この日はその集大成として、4年生が研究報告を行いました。



この日の会場は、発表を控え緊張した面持ちの4年生から、1年後の我が姿を想像しながら聴く3年生、研究室配属を前にして聴く2年生、そして我が子の晴れ舞台を見守る親のような眼差しの指導教員達と、それぞれの特別な思いに会場が包まれていました。

今年度は各研究室1題ずつの計11題の口頭発表と45題のポスター発表が行われました。発表内容は遺伝子や食品の物性に関する実験研究から、人を対象とした調査研究、食品開発や文献研究まで、幅広いテーマが並びました。今年の卒業研究発表会は、3年生からの質問やコメントが多数寄せられ、先輩達に学ぼうという後輩の姿勢が感じられ、とても好感が持てる雰囲気の中に終わりました。

ました。

4年生はこの発表会を終えると、国家試験の受験生ムードが一気に高まります。卒業研究でみせてくれた頑張りを、今一度みせて欲しいと願うばかりです。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
國本 優	廣 田	シカ肉の有効活用に向けて ～ハンターに関する意識についての基礎調査～
吉池 梨絵	小 西	勤労女性における食習慣・生活習慣と抑うつ症状
小林 加音 峯村真以子 宮入 綾菜	成 瀬	一日限りの減塩教室の効果の検証
稲田絵美子	矢 内	廃棄されるそばの製粉残渣の有効活用法の開発
坐間 瑞歩 神林 暁子	藤 岡	炎症性腸疾患の個々の患者に適応した食品選択の必要性について
二枝あゆみ	福 島	水をめぐる世界の動向
宮下 恭子	沖 嶋	長野県松本市ならびにその近郊で販売された大豆製品における、遺伝子組換え大豆RRS混入状況の網羅的調査
松井 京子 南澤 優気 峯村 桃子	進 藤	ヒトにおける随意収縮によるシナプス前抑制の変化
黒田 康平 保坂 璃映	高 木	6-MSITC によるインスリン誘導性転写因子SHARPsの発現調節機構の解析
中村 優子	山 田	siRNAを用いたPEPCKのノックダウンによる糖新生の抑制システムの構築
近藤結実子 永井 彩花 村田 浩美	石 原	寒天ゲルの物性に及ぼすショ糖および牛乳の影響について

人間健康学部 スポーツ健康学科

スポーツを学び続けた 4年間の総決算

教務委員長・スポーツ健康学科教務部会主任 岩間 英明

1月11日、スポーツ健康学科の卒業論文発表会が開催され、文字通り卒業を前にした4年生全員が自らの研究を口頭やポスターにより発表しました。スポーツは総合科学であることから、研究の内容もスポーツの各分野である医科学・社会学・教育学など、多種多様な切り口からまとめられたものでした。今年はいつになく研究の進みが遅く、提出期限ギリギリまで各ゼミ担当の頭を悩ませていましたが、内容は昨年と比較しても優劣つけがたい物ばかりで、松本大学らしい理論と実践が融合されているものが多くありました。

また、発表会の様子も年々活況を示し、口頭発表では4年生はもちろん、下級生からも質問や意見が続出し、教員が意見を述べる間もないほどでした。ポスター発表でも工夫された展示物、熱心な発表の姿あるいは、参観者と熱く意見交換をしている場面も数多く見受けられ、まさに大学に相応しい研究活動が展開される一日となりました。

卒業研究はこれまで選択科目でありながら、卒業生も含めほぼ全員が取り組んできましたが、いよいよ来年度からは必修科目として、これまで以上に卒業への大きな関門となります。よりよい研究活動を期待したいと思います。



氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
近藤 壮太	根 本	歩行フォームの違いによる歩行姿勢の特徴の評価
川原 康弘	等々力	プロ野球マスコットのキャラづけとパフォーマンス ～キャラクター性に学ぶ経営戦略～
安田 美森	岩 間	走運動指導の有効性について ～小学生の指導実践から～
深澤 友樹	田 邊	無酸素性運動におけるBCAA摂取が血中乳酸値、心拍数および脚筋力に及ぼす効果
小池真名美	齊 藤	一人暮らしの高齢者を対象とした事例報告
若林 拓哉	吉 田	クロスカントリースキーに関する研究
秋山愛梨花	岩 間	小学生の日常活動量と体力形成の関係について ～山間部の小規模校を例に～
坂井 一馬	三 村	ヒトはエネルギー消費が一定になるように歩くスピードを変える
古幡 知里	中島弘	田んぼの楽校活動参加が児童のコンピテンスに及ぼす影響
小林 果鈴	齊 藤	社会人陸上競技選手はなぜ競技を継続しているのか?
今井 智耶	岩 間	生徒が考える体罰の定義とその背景
飯島 沙江	犬 飼	成長期の身体運動と足裏形成 ～体幹を意識した運動の実践と足裏測定調査から～
塩原 裕樹	呉	高校生野球選手の食生活の状況
唐澤 育美	等々力	スポーツと音楽の関わり ～様々な角度から見たスポーツ～
高橋 千波	岩 間	養護教諭が担当する保健学習に関する調査
橋本 弥幸	齊 藤	エキスパートスポーツ選手の親はどのような思いで援助を行なうのか?
宮澤 武	吉 田	総合型地域スポーツの現状と課題に関する研究 ～たかいで総合型地域スポーツクラブの実態調査から～
立花 千春	根 本	色彩が心理及び運動に及ぼす影響の活用を検討
浅野 貴	等々力	スポーツの精神力が体に及ぼす影響
山田 大地	大 窄	公共施設及び公園等の脱タバコ対策に関する研究 ～山梨県中西部を中心に～
矢ヶ崎春香	田 邊	女子大学生と女性中高齢者を対象とした生活環境が足裏に及ぼす影響について

松商短期大学部

魅せる卒論発表会
～多分野に渡り興味深い発表が～

松商短期大学部 教務部会主任 浜崎 央

恒例となっている短期大学部の「卒業論文発表会」が、今年度も1月29日に開催されました。本短大では2年間、ゼミで学んだ内容を卒業論文としてまとめ、それを一年生の前で各ゼミの代表者が発表しています。例年、そのレベルの高さに驚きを持って聞いていますが、今年度は、例年以上に工夫を凝らした発表が多くみられました。中でも長島ゼミの宮田翔太さんと関川友佳里さんの『TVCMから考える費用と資産』の発表では、難しい会計の考え方を、テレビCMを利用してビジュアル的にも分かりやすく説明するだけでなく、掛け合いのようなセリフも用意し、非常に工夫に富んだ魅せる発表でした。



この発表会は一年生に、次年度、自分たちが行うことのイメージ

を付けてもらうことを目的の一つとしています。17のフィールドを擁している松商短大ならではの多分野に渡る発表は、時間を忘れて楽しくそして興味深く聞くことができ、大いに刺激を受けたのではと感じています。すべての卒業生が、この卒業論文を苦勞を重ねて完成させており、自信を持って社会に羽ばたいてもらえるのではと期待しています。

氏名	ゼミ	卒業論文テーマ
平林 麻衣	篠原	自分史の作成をふりかえって
太田 優依 永井 綾 野口 綾果	小澤	松本大学松商短期大学部学生の恋愛観・結婚観の差
宮田 翔太 関川友佳里	長島	TVCMから考える費用と資産
高橋 里奈	中村	留学に対する意識
池堂 優美	廣瀬	ユニバーサルデザインを生み出すために必要な視点～使いやすさ、安全性・快適性、手段の重要性～
梅村真太郎 高橋 和也	川島	心身の状態の変化と反射速度の関係性
鶴川 凌平 新林 良平	矢野口	スクラッチを用いたゲームプログラムの制作
佐々木由紀	藤波	日本のアニメーション、実はここが違う
佐久間直人 柳沢 圭祐	浜崎	Flashを利用したWeb上で動く素材の作成

大学院修士論文審査発表会

大学院という名の電車に乗って、
ようやく終着駅

大学院健康科学研究科長 三村 芳和



スーツでバシッと決めた8名の修士修了(予定)者。声は高ぶり、震え、喉の渇きが伝わってくる。この2月13日。大学院の修士論文審査発表会。

新鮮な想いで発表に聴き入った。なぜか。みんな入学したときにこんな立派な研究をスルなんて想像できなかったから。それと8名がそれぞれどのようなプレゼンテーションをスルか想像できていたから。

本来は感情移入などないはずの科学論文。しかし、そこには個性がありありと表出される。考察の深度がハッキリと表れる。微に入り細に入りトモ気配り上手な論文。ここをこのような文言で表現するとは、思わずウマイ!と感じ入る。反対に論文の作法などどこかへ置いている論文。研究姿勢が行間から漂ってくる。やはり想像したとおりの発表内容だった。

研究は世に(論文として)発表して完結するもの。いかに聴衆の心を揺さぶるか、ある意味、銀幕のなかの役者だ。日本風と言えば、どれだけみんなを泣かせるか。ただ、役者と根本的

にちがう点は、涙腺に訴えようにも内容がサクサクと滞ることなくロジカルでなければ、それはコミカルに終わってしまう。

8名の修了者、いや修了予定者よ、大学院で学んだことを糧に社会で羽ばたけ!

発表者	指導教員	論文タイトル	
傳田 友樹	呉	高校生クロスカントリースキー選手には間欠的持久力が必要である	Young Japanese cross-country skiers are in need of intermittent endurance
小野 萌	山田	単糖によるインスリン誘導性転写因子 SHARP-2 遺伝子の発現調節	Regulation of an insulin-inducible transcription factor SHARP-2 gene expression by monosaccharides
小松 佳子	山田	AICARによるインスリン誘導性転写因子 SHARP-2 遺伝子の発現調節機構の解析	Analysis of regulatory mechanisms of an insulin-inducible transcription factor SHARP-2 gene expression by AICAR
田内 佑季	廣田	若年女性、高齢女性における睡眠の質と栄養素・食品摂取状況との関連性	Association Between Sleep Quality and Nutrient and Food Intake in Japanese Young Women and Elderly Women
山口 健	三村	低酸素下の運動を間欠的におこなうと持久力が増える	Intermittent hypoxia training at low intensity improves VO ₂ max
山田 昌	呉	たんぱく質の種類が異なる高脂肪食摂取と運動が高齢ラットに及ぼす影響	Effects of High-Fat Diets intake of different a component of protein and Exercise in aged rats
橋爪みすず	呉	中学・高校女子新体操選手における骨代謝及び骨密度に関する研究 -競技レベルと年齢の相違に着目して-	A Study on Bone Density and Bone Metabolism in Junior and Senior High School Girls Gymnastics Player -The Difference in Age and Competition Level-
上條 治子	呉	性別や運動習慣の違いによる高校生の栄養・食生活の特性、及びQOLと関連する食生活要因の検討	Examination of Dietary Life Associated with Dietary Characteristics and Quality of Life of Senior High School Student by Difference in Sex and Exercise Habits

キャンパスを飛び出し
地域で学ぶ!

アウトキャンパス・スタディ

out campus study

》「植物工場」でのアウトキャンパス・スタディ

総合経営学科
准教授 成 善政

2013年12月12日、総合経営学科の葛西ゼミ(葛西和廣教授)と私の食品産業論・アグリビジネス経済学受講生で、「経済性という観点から見た植物工場の可能性と課題」というテーマで、安曇野市三郷にある「有限会社安曇野三郷ハイテックファーム」という植物工場を訪問し、施設の見学やプレゼンテーションを受けました。

今回の植物工場のアウトキャンパス・スタディでは、当然、工場の内部には入ることができず窓から施設や植物栽培の状況、



収穫状況などを見学した後、会議室に移動し、代表取締役の大野田洋さんから植物工場の概要と当企業の現況などについての詳細な説明を受けました。その後、学生による質問の時間があり、見学者達は設備に関すること、とくに現在のナトリウム灯をLEDに交換した場合のコストのことや、この植物工場で生産された野菜の販売先、植物工場のメリット、植物工場の今後の可能性、消費税増税後の経営への影響等について熱心に質問し、回答を真剣に聞いていました。

参加者は、まず「とても楽しかった」、「おもしろかった」、「これは農業とはいえない」、「野菜が他の工業製品と同じように生産されている」、「これなら日本の農業にも未来があるかも」、「大変勉強になった」、「この



ような農業の形があることをはじめて知った」などの感想を話していました。

確かに、従来の伝統的な農業経営では考えられない未来の農業経営の一つの形かもしれません。極めて厳しい経営環境に置かれている日本農業の現状を鑑みながら、いろいろと考えさせられた貴重なアウトキャンパス・スタディの時間でした。

》7年目を迎えたアーリー・エクスポージャーの実践

健康栄養学科
専任講師 藤岡 由美子

アーリー・エクスポージャー(早期体験学習)とは、大学入学後の早期に、将来自分が働く現場の体験を通して、専門職としての職業観や将来像を明確にし、大学での基礎的な学習に対するモチベーションを高めることを目指した学習プログラムです。これまで学科開設時から7年間に渡り、延べ766名の学生を県内5病院と保健福祉センターに計14回引率しました。その成果は、管理栄養士養成教育における本邦初の報告として、栄養学雑誌(vol.71, No.6)に掲載されました。



本年度は、10月26日に北信総合病院を、11月30日に昭伊南総合病院を訪問しました。何れも病院祭が開催される日に実施しています。病院祭とは、病院が一年に一度施設を開放し、臨床検査、体力測定、医療器具の展示や体験などのコーナーを設置することにより、医療に関する情報提供や地域住民との交流を図るイベントです。

見学の前半は、各診療科が設置したコーナーを自由に訪問し、医師や看護師等の各職種から説明を伺い、後半は、管理栄養士から大量調理施設を案内して頂いています。

本学における早期体験学習の各目的に対応させた学生のコメントをいくつか紹介しますと、『管理栄養士という専門職に対する職業観を育む』については、「栄養のことだけを知って



いても駄目で、他職種の業務を知っていることが大切』、『大学での学習に対するモチベーションを高める』については、「今勉強していることの必要性が分かり、頑張ってみようと思った』、『管理栄養士としての将来像を描く』については、「早いうちに見学に行くことは大事、将来の選択肢を広げようと思った』などが、代表的な意見として挙げられていました。

1年生の見学態度は、これまでで最も積極性があり、事前に指示をしなくとも自ずと質問し、メモを取る姿勢が真剣でした。再来年、自身の授業で再会することが、今からとても楽しみです。

公務員試験対策講座を開講

エクステンション機構長・人間健康学部長 等々力 賢治



本学では、4月より、公務員を志す学生を対象に公務員試験対策講座を開講します。毎年、10名余りの学生が警察官などの公務員として巣立っていますが、これを大幅に増加させるべく、大学として強力に支援・援助しようという企画、事業です。

通常の講義と異なり正課外で実施される本講座は、公務員試験の合格実績を誇る(株)東京リーガルマインド(LEC)と連携し、同社の試験対策のエキスパートが授業を担当します。内容は、主に町村役場職員・警察官・消防官・教員、および管理栄養士・健康運動指導士・福祉職などの採用試験への対応を念頭に教養分野対策に主眼をおき、3年生の4月から公務員試験直前の4年生の5月まで、計50回(右表、対策講座概要 参照)で構成されています。専門学校の標準的な50分講義で100回を要するといわれる内容ですが、本講座は90分50回で企画されており、また、受験直前の4年生の5月まで受講可能な、まさに「松本大学特別プログラム」と呼んでもよいものになっています。

なお、短期大学部生は1年後期からの受講となります。そのため、前期分の内容を、希望や必要があれば別オプションで行う予定です。この別オプションについては、地方上級職や市の行政職を希望する学生のほか、小論文・作文対策講座や面接・サポート相談会などについても、希望や必要に応じて実施することを考えています。

以上が本講座の概要ですが、受講費用は5万円(1年後期から受講する短期大学部生は3万円)を自己負担とし、残余については大学が援助します。通常、専門学校では20万円以上必要とのことですので、本講座が学生にとって極めて割安であることがお分かりいただけると思います。ただ

し、受講途中で脱落しても返金はしませんので注意してください。

「公務員は安定している」とよく言われますが、そればかりでなく、松本大学の設立理念である地域振興や活性化の先頭に立つ、本学の卒業生にふさわしい仕事、職場でもあります。やる気に燃える沢山の学生が本講座を受講するよう、大いに期待しています。

●対策講座概要																	
3年次						4年次											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月				
一般教養講座 前期15回(各90分)						数的処理講座 前期15回(各90分)						一般教養講座 後期15回(各90分)		直前総まとめ 全5回(各90分)			
一般教養講座 [前期15回] 第1回 文章理解 第2回～6回 人文科学(歴史・文芸など) 第7回～13回 社会科学(政治・経済・時事など) 第14回～15回 自然科学(生物・科学・地学など)						数的処理講座 [前期15回] 第1回 文章理解 第2回～6回 人文科学(歴史・文芸など) 第7回～13回 社会科学(政治・経済・時事など) 第14回～15回 自然科学(生物・科学・地学など)						一般教養講座 [後期15回] 第1回～2回 数的処理 第3回～8回 判断推理 第9回～12回 図形 第13回～15回 資料解釈				直前総まとめ [全5回] 第1回～5回 総まとめ演習	

総合経営学科の国家資格対策充実で、合格者誕生

総合経営学科長 太田 勉

総合経営学科では、2013年度から、従来の「企業マネジメント」とバランスがとれるかたちで「生活マネジメント」を拡充したのに合わせて、国家資格を中心とした資格対策講座を充実させ、1年生から取り組めるようにカリキュラムを再編しました。

学科を挙げて重点的に取り組んだのは、企業マネジメント関連の宅地建物取引主任者(宅建)、通関士と、生活マネジメン



ト関連のフィナンシャル・プランナー(FP)、消費生活アドバイザーの4資格です。いずれも経済・経営・法律の基礎知識や実践的な応用力が必要ですが、実社会で役立つ知識や判断力が身につく「就職に有利」とあって、予想を超える数の1年生が資格対策講座を受講する状況となりました。

とくに関心を集めたのは「宅地建物取引主任者」です。宅建は土地や建物の売買などの取引を行うために必要な国家資格で、不動産、金融など幅広い業界でニーズが高いからです。宅建講座履修の1年生は20名を超え、その大半が先輩達とともに夏休み中の1か月にわたる勉強会に参加し、宅建合格をめざしました。昨秋の国

家試験では、1年生は合格ラインに一歩及びみせましたが、銀行や不動産業界を志望する3年生2名が見事に合格を勝ち取りました。

また「ファイナンシャル・プランナー」も、インフレや消費税率アップなどが話題となる中で、家計にも就職にも役立つ、今狙い目の国家資格として注目され、1年生を含む幅広い学年がFP対策講座に取り組みました。その結果、今年度はFP3級に3年生3名(うち女子2名)、2年生1名に加え、1年生も1名合格しました。

今年度の成果を踏まえ、意欲のある学生には1年生から将来を見据えて積極的にチャレンジするよう支援していきたいと考えています。



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』

地域づくり考房『ゆめ』専任講師
福島 明美



文部科学省
地(知)の拠点

若者と地域の方々130人が集い語り合った 「地域フォーラム」開催

3月2日に本学において、県内外の学生50名、大学関係者7名、NPO・自治会関係者や企業・行政職員等73名の異業種・異分野の方々130人が集い、10代から80代の方々が世代を超え語り合いました。

この「地域フォーラム」は、日常生活で接点の少ない様々な分野で地域活動を進めている若者と地域の方々との出会い・語らいの場を創出し、世代を超え相互理解を図ることを目的に、COC事業の一環として開催しました。「地域活動講演会」「ワールド・カフェ」「名刺交換・交流会」を行い、新たな関係づくりや各々の活動の進展に向け、持続可能な地域づくりへの扉を開ききっかけとなりました。

「まちをタノシム」 地域活動講演会

まちづくり・地域づくり、観光振興、人権啓発、国際交流、子ども・教育、ファンドレイジング等、多分野の活躍に携わってこられた元高知市市民活動サポートセンター長^{はたけなか ようこう}で高知短期大学非常勤講師の畠中洋行氏をお迎えし行いました。これまでの実践活動の中から、高知県おもてなし課や高知空港での「おもてなしゲリラ」による観光振興、子どもの育ちを応援し、世代を超えたつながりを創る「とさっ子タウン」など、様々な方々との活動を紹介していただきました。



参加者からは、「中身の濃い楽しいお話を伺うことが出来てよかった。とさっ子タウンから始まるまちづくり・人づくりは活動のヒントになる」といった感想がありました。

学生が企画し、ファシリテートした 「ワールド・カフェ」

「ワールド・カフェ」とは、話し合いを通して様々な人々の考えや意見を聴くことで視野を広げ、多くの出会いと気づきを高め合い、つながり合うきっかけをつくる語らいの場を創出する手法です。

講義「コミュニティリーダー」履修学生を中心に、講義で学んだ「コミュニティを取り巻く環境」や「今求められるリーダーの資質」を活かして、地域の課題を抽出。それに基づき各々が関心のある6テーマを設定しました。地域づくり考房『ゆめ』学生プロジェクトメンバーも加わり、若者と地域の方々が語り合う場を企画し、進行役となるファシリテーターを務めました。



【テーマ】

- ①子どもが育つ地域の環境づくり
- ②食の安全を考える
- ③異世代交流を通じた地域づくり
- ④公共交通の利用率を高めるために
- ⑤観光と日々の暮らしの中で賑わう商店街の再生
- ⑥聴覚障がい者との相互理解と絆づくり

各々のファシリテーターは、気軽に誰でも話し合える環境づくりのために創意と工夫でテーマごとに場を設定し、主体的にリードしていました。また、この催しは松本大学認定地域づくりコーディネーターにサポートしていただきました。

地域の参加者からは「学生さんもしっかり自分の考えを持って話し合い(カフェ)に参加していて、心地よい刺激をいただくことができました。課題についてだけでなく、討議の進め方等、学ぶことが多かったと思います。楽しく、たくさんの情報と刺激と出会いをいただきました」と。学生からは、「年齢を問わず、いろいろな人たちからお話を聞いたり、意見を出し合ういい機会でした。新しいものの見方や考え方が出来そうです」との感想がありました。

名刺交換・交流会

フォーラムの最後に「名刺交換・交流会」を行い、参加者が自由に交流しました。



「懐かしの松本電鉄」絵画・写真展、同時開催

今回のフォーラムに併せて3月1日・2日に、「懐かしの松本電鉄」絵画展＆写真展を開催しました。

絵画展は、安曇野市出身の作曲家飯沼信義氏が、芳醇な感性を尽くして描きためてきた120点に及ぶ水彩画を収録した「画文集 懐かしの松本電鉄◇思い出バス120景」から、20点の原画をお借りして展示させていただきました。

また、写真展は、大正時代から現在までの歴代の電車景20点をアルピコ交通株式会社より提供していただきました。

3月1日に本学を会場に行われた「信州地域づくりフォーラム」への参加者も含め、多くの方々にご覧いただくことができました。昭和30年代の松本の街並みを走るボンネットバスや新村駅に保存されていた日本最古の木造電車ハニフ号などの勇姿や風景に、昔を思い懐かしくご覧になっていました。



*詳細は、4月1日発行予定の地域づくり考房『ゆめ』が発行する「ゆめ通信」やホームページをご覧ください。

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション

地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動を紹介します。

健康運動指導士スタッフ 赤津 恵子

運動実践を通じた健康づくりを地域の皆様にお届けしています

本学が文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことに伴い、平成25年10月より地域健康支援ステーションに、健康運動指導士スタッフとして配属されました。

すでに食や栄養に関する分野で支援活動を実施している管理栄養士スタッフと連携するとともに、大学での学びを現場で実践したいと希望する学生と共同で、運動の面から地域の皆様の健康づくりのお役にたてたいと思っております。10月以降に行なった活動のうちいくつかをご紹介します。

公民館の運動教室で 運動実践指導をしています

塩尻市内の公民館が、毎週火曜と木曜に定期的に開催している運動教室で運動実践の指導をしています。この運動教室は、申込制の連続講座形式ではなく、誰でもいつからでも何日でも参加できるのが特徴です。そのため、開催日ごとに参加人数や年齢層が変わります。また、運動場所も和室、会議室、多目的ホールと一定していないため、集まった皆さんの顔ぶれや会場の広さによって運動の内容を変えています。この教室に続けて参加すれば、最低でも週2回運動することになり、筋力アップなど少しずつでも効果が上がるのではないかと考えています。



笑顔があふれる場にしようと工夫していますので、この運動教室が地域の皆さんのお出かけの機会になればいいと思います。「腰痛が軽くなって朝スムーズに起きられるようになった」、「体が動きやすくなった」、「楽しいので続けられる」等のご感想をいただいています。新しい方にも多数参加していただき、健康づくりの輪が広がるお手伝いできればと思っています。

小学校で親子レクリエーション を実施しました

松本市内の小学校3年生の保護者から、人間関係をより円滑にできるようなレクリエーションを実施して欲しいとのご依頼を受け、11月22日、保護者と児童、担任の先生方合わせて150余人が参加して1時間ほどのレクリエーションを実施しました。はじめに、親子の絆が深まるよう、親子ペアによ

るウォーミングアップ、ストレッチを行い、続いて保護者同士、児童同士のコミュニケーションが



できるように様々なゲーム形式のレクリエーションを実施しました。保護者からは、「久しぶりに体を動かすことができた」、「楽しい交流ができてよかった」とのご感想をいただきました。

認知症・介護予防教室で お話と運動実践を行いました

朝日村地域包括支援センターから高齢者の認知症予防教室の講師を依頼され、12月13日に伺いました。

認知症にもいろいろなタイプがあり、また、その予防対策にも多様なアプローチ



があります。当日は、アルツハイマー型認知症予防のための様々な

取り組みを紹介した後、日ごろ固くなった筋肉をゆっくりほぐすようストレッチを行いました。

地域包括支援センターから来年度も健康教室を計画するので筋力アップのトレーニングも実施してほしいとお話がありました。継続して朝日村の高齢者の健康づくりに貢献できたらと思います。

精神障害者施設で 軽運動を伴うゲームを 実施しました。

塩尻市の精神障害者施設から、収穫祭において、入所者と保護者で何か楽しいレクリエーションをやりながら体を動かしたいとのご依頼を受け、12月6日、施設に赴きました。

3チームに分かれ、軽運動を伴う「ドッジビー」など3種目のレクリエーションを実施しました。皆さんから、「日ごろあまり活発に体を動かしたことはないが、今日は楽しく運動して本当に気持ちがいい」等のご感想をいただきました。

●商工会主催の講習会に管理栄養士スタッフとともにお伺いしました

筑北村商工会から、地域で働く人の労働安全の知識や意識を向上させ、労災ゼロ・健康の確保増進を図り快適な職場づくりに取り組むため、労働安全講習会と併せて食と運動の面からも講習をしたいとの依頼を受け、石澤管理栄養士スタッフと伺いました。栄養に関しては同スタッフが「食で健康 いきいき筑北」と題して、労働者の健康管理における基本法令、「未来形」で食べることの大切さの話、また〇×クイズや腹囲測定などを取り入れた参加型講習を行いました。運動に関しては、「運動で健康寿命を延ばしましょう」と題して、健康寿命を延ばすために活動的な生活を送ることの重要性をお話させて頂いたあと、労働時のケガ予防のため、椅子に座った姿勢でできるストレッチ運動を実践しました。終了後の参加者のアンケートでは、食事について日頃食べ過ぎのことが分かった、必要エネルギーなど大変わかりやすかった、運動に関しては、もっと運動する必要がある等のご感想をいただきました。今後は、さらに分かりやすく、話の内容や実践方法を工夫して皆様にご提供できたらと思っております。



皆様の身近で、学生や専門スタッフ(管理栄養士、健康運動指導士)がお手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください

ハラスメント防止に向けて

ハラスメント防止委員長・スポーツ健康学科教授 犬飼 己紀子

松本大学ハラスメント防止委員会は、2011年度より防止対策及び防止啓発の実働要員として10名の教職員からなる小委員会で活動を進めています。この間、ハラスメント相談受付窓口の設置、問題解決に向けた流れの明確化、そして有事には専門の立場で相談にあたっていただける外部アドバイザーへの委嘱を得て、2012年春「松本大学ハラスメント防止パンフレット」を作成しました。これを以て全学教職員がハラスメント防止に対する意識を共有するとともに、ガイダンス等で学生に周知し、防止啓発活動をスタートすることができました。以来、ハラスメント防止に向けた全学教職員対象の研修講演会の開催、ポスター掲示、卒の森祭での標語募集と表彰などを通じ、学内における人間関係・人権意識の高揚に努めています。



【圧力は上からかけると横に行く】
卒の森祭ハラスメント標語コンテスト:優秀賞
総合経営学部3年 鈴木 淳也さん

大学の構成員として、教職員の誰が担ってもハラスメント防止委員の役割を果たすことができる、そのような人権意識の高い組織集団への変革を目標に、今後もハラスメント防止・啓発を進めていきます。

25年度ハラスメント防止啓発研修を受けて



平成25年度ハラスメント防止啓発研修を2月13日に開催しました。外部講師を迎えて全学教職員

向けに開催する研修は、今年で3回目を迎え恒例となりつつあります。今年度は、大阪大学人間科学科教授 牟田和恵氏をお迎えし、「先生、その言動はハラスメントです!」と題してご講演いただきました。氏は自身が専門とする「セクシャルハラスメント」の事例を多く挙げ、人間関係における双方の受

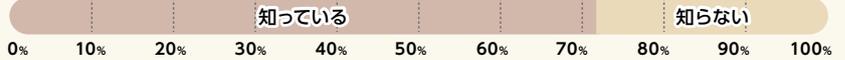
け止め方のズレに問題があること、また生じた問題に白黒つけようとするのは、非現実的な対応でもあると話されました。

ハラスメントとされる多くの問題が、発生当初はグレーゾーンにあるといいます。ハラスメントかな、と思われることを曖昧なまま放置することは問題です。迅速な対応で当事者の環境を保障することが必要

でしょう。しかし、問題化したケースもその対応の仕方によっては、雪だるま式に無用な方向に膨らむこともあります。今回の講演を受けて、当事者を「黒」であると決定づけることが、必ずしも被害者とされる側のその後、良好な環境をもたらすとは限らないと理解することができました。有事にあたっての対応の仕方にこそ、問題拡散や発生の抑止、また防止啓発に向けたヒントがあると受け止めることができました。

〈参加者アンケート結果より〉

大学の相談窓口を



●ハラスメント相談窓口 メールアドレス:harassment@matsui.ac.jp パンフレット設置場所:学生センター・図書館等 各カウンターに設置

中部産業連盟(中産連)の海外研修生が本学で学びました

管理課長 臼井 健司

このたび中部産業連盟(中産連)の国際研修部が、JICAのプログラムの一環として受け入れたアジア7カ国12名の政府経済部門や中央銀行職員などで構成される海外研修団が来学し、6次産業化の理論と実践を学びました。

9日に名古屋から松本入りした一行は、まず山形村のアイシティで開催中だったバレンタインスイーツイベントで、県内高校、松本大学白戸ゼミ、松商短期大学部金子ゼミ生らが考案したスイーツ等を販売する様子を視察。白戸洋教授から「高校生の発想をマーケティングや商品知識の授業で学びを高めるプロセスやプロの現場での販売体験が彼らを成長させる」という解説を受けて、チョコを選ぶ研修生もいました。

10日午前中は本学で6次産業化と大学、企業の役割を学ぶ講座として、住吉廣行学長の歓迎挨拶後に観光ホスピタリティ学科の佐藤博康教授、健康栄養学科の矢内和博専任講師が共に英語で講義しました。Local values & Food Cultureと題した佐

藤教授は、道の駅など農産物直売所における活動が地産地消の経済効果に加えて住民同士の情報や心の交流の場となっている事、ユネスコの世界文化遺産に認定さ



れた和食が文化、風土、おもてなしの精神を伝える宝として海外からの観光客を魅了する資源となっていると解説。矢内専任講師はわさびペーストや信州アルクマそば開発の過程で従来は廃棄されていた部位を製品に活用する「もったいないの発想」と、それを実現した安曇野の企業との地道な連携を紹介しました。午後は株式会社まるたかを見学して名古屋へ戻った研修生からは“Bangladesh is agriculture based country. We need this type of sixtiary sector joint council” (バングラデシュ) “The visit to Marutaka Corporation and learning about 6th sector is not only useful for Japan but for all the nation” (ネパール)と感想が寄せられています。

本学教職センター9年間の取り組み

教職センター長 小林 輝行

本学に教職センターが設置されたのは、教職課程が初めて本学に設置された平成14年4月ですが、現在までの9年間の取り組みを簡単に振り返ってみます。

本学教職課程「公民」の設置 本学は、平成14年4月に創立されました。創立準備段階で、教職課程設置の検討はされましたが、大学創立を優先したため教職課程の設置は見送られました。本学に教職課程が設置されたのは、平成18年4月からです。当初の予定では、「公民」、「商業」、「情報」の3教科の免許課程を設置することにしていたのですが、当時の本学の状況に鑑み、先ず「公民」の免許課程を設置し、その後に順次設置可能な免許教科を課程認定申請していくという方針に切り替えて出発しました。

改組と免許教科の設置 平成18年4月、発足当初の総合経営学科を、総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の2学科とする学部改組に合わせて総合経営学科に「商業」と「情報」、観光ホスピタリティ学科に前年に設置された「公民」の他に、新たに

「地理歴史」の免許課程を設置しました。翌19年4月には、総合経営学部と人間健康学部の二つの学部改組され、これに合わせて、人間健康学部のスポーツ健康学科に「保健体育」、健康栄養学科に「栄養教諭」（1種免）を設置しました。また、観光ホスピタリティ学科に新たに「福祉」の免許課程を増設しました。

改組後の免許教科の増設 これまで本学では高校教諭と栄養教諭の免許は取得できましたが、中学校免許課程は開設されていませんでした。そのため就職面での制約があり、中学校免許を取得できるようにしてほしいとの声が次第に高まってきました。また、長野県下には養護教諭1種免許が取得できる大学が無く、養護教諭免許課程の設置を望む声も出てきました。こうした状況を踏まえて、平成21年4月、中学校「社会」、「保健体育」、「養護教諭」（1種）免許課程を増設。翌22年4月には、養護教諭免許取得者向けの中・高「保健」の免許課程も設置しました。

大学院の創設と専修免許状 平成23年4月、本学に大学院人間健康科学研究科が設置されました。この大学院の設置に伴い、平成24年4月、中・高「保健体育」及び「栄養教諭



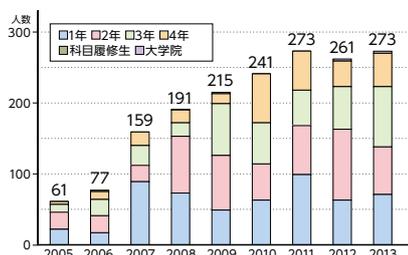
の専修免許課程を設置。現在、教員免許制度が専修免許状を基本とする制度に改める方向に向かっていますが、この専修免許課程の設置により、本学でもこうした免許制度の改正動向に対応できる体制が一部整ったこととなります。

小学校教諭2種免許取得支援プログラム

平成25年4月、明星大学と提携して在学生中に小学校教諭2種免許が取得できる「小学校教諭2種免許取得支援プログラム」を開設しました。この支援プログラムの履修申込者は、平成25年度7名、平成26年度14名です。

以上、本学教職センターの9年間の取り組みについて一瞥してきました。教職課程開設当初61名で出発した教職課程履修者は、現在273名と約4.5倍になり、本学卒業生で教育関係機関に勤務している卒業生の会『梓友会』の会員数は45名に達しています。平成25年度には、公立学校教員採用選考に5名の卒業生が合格し、さらに私学の正規教員として2名の採用が決定しています。現職の正規私学教員等も9名おり、平成26年度には、合わせて16名の本学卒業生が公私立の正規教員として教育界で活躍することになり、今後の本学教職課程の益々の発展が期待されます。

■教職課程履修者



News & Topics

有終の美を飾る!

大橋拓矢君(スポーツ健康学科4年) 大学生基礎スキー大会の頂点へ

スキー界のインカレに相当する第41回岩岳学生スキー大会において、約800名の強豪選手と競い合い、参戦4年目で見事総合優勝を果

たしました。種目別順位はパラレルターン小回り不整地急斜面およびパラレルターン大回り急斜面1位、総合滑走2位と、技術力の真価が問わ



れる急斜面での卓越した滑りが評価されました。昨年7位からの快挙、春の訪れを感じさせる岩岳のゲレンデも彼の日々の努力と結果を祝福しているかのようでした。

(男子スキー部長・総合経営学科准教授 矢崎久)

第47回 全日本学生ボブスレー選手権大会 優勝一仙台大学の17連覇を阻止

1月10日・11日、全日本学生ボブスレー選手権大会が、長野オリンピック会場でもある長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)で開催され、松本大学から壽里吉紘君と今井伸哉君(いずれもスポーツ健康学科4年)が、ボブスレー男子二人乗りに参加しました。

ボブスレーは“氷上のF1”とも称されるスピード感溢れる競技で、二人は最高時速123.3kmを記録し、2位以下に大差をつけての優勝でした。

東京都出身の壽里君は高校時代



ウエイトリフティング、地元長野市出身の今井君は柔道と全く違う競技をしてきましたが、松本大学でボブスレー競技に出会いました。二人にとって最後の学生選手権、これまで圧倒的な実力で学生ボブスレー界に君臨してきた仙台大学の17連覇を阻止して、悲願の全国大会初優勝を遂げました。

(スポーツ健康学科准教授 岩間英明)

退職のあいさつ

本年度で7名の教員が
本学を退職することになりました。

北アルプスに魅せられて

小林 輝行



私は、平成16年4月に本学に着任した。爾来、研究室から見える四季ごとに移り変わる北アルプスの山々に魅せられて、あつという間に10年が経ってしまった。

この間、先生方、事務職員の方々、学生たちに支えられて、なんとか現在のような教職課程の形にすることができた。本当に心底から「長い間ありがとうございました」と申し上げる次第である。今後の松本大学の益々のご発展を心から祈念して、お礼の言葉に代えさせていただきます。(教職センター長・教授)

諦めず努力すれば夢は叶う

佐久 信雄



この冬、ソチ五輪で悲願の銀メダルをとった41歳の葛西選手の姿は、「諦めず努力すれば夢は叶う」ことを教えてくれた。そのためのたゆまぬ挑戦はどうしたらできるのだろうか。私が講義のレジュメにいつも載せていた、後藤静香の詩「第一歩」の中に、『三笠山に登る第一歩 富士山に登る第一歩 同い歩でも覚悟が違う どこまで行くつもりか どこまで登るつもりか 目標がその日その日を支配する』というくだりがある。8年かかって念願の公立学校正規教員に合格した先輩もいる。頑張れ松大生。(教職センター教授)

北アルプスを臨んだ日々

小西 香苗



松本に初めて降り立った日のことは今でも鮮明に覚えています。札幌から松本へ向かう機中から臨んだ雲海と北アルプスの山々は、心が洗われるような清らかな心持にさせてくれました。あれから4年、美しい北アルプスを毎日臨みながらの教員生活は、忙しくも充実した日々を送ることができました。“真面目・素朴・やや社交性不足?”の長野県気質たっぷりの学生さんは、私にとっては教えやすい可愛い娘のような存在でした。松大生によって教員として育てて頂いたとの想いもある中、松本大学を離れるのは大変残念の一言に尽きます。今後も教員として東京の新天地にて精進をしてみたいです。何処にいても松本大学の益々の発展をお祈りさせていただきます。(健康栄養学科専任講師)

あつという間の7年間

吉田 勝光



最近ようやく、同僚の先生方と共同研究等を一緒に力を合わせるできるようになってきました。長野県内に人とのつながりができ、総合型地域スポーツクラブ普及やスポーツ推進計画の策定にも関われるようになりました。時には自分には荷が重いと感じたときもありました。振り返ってみれば、皆様「感謝!」の、瞬く間の7年間でした。(スポーツ健康学科長・教授)

良い週末を!!

石井 房枝



松本駅前、三角柱の時計塔に「学都」「楽都」「岳都」の文字が刻まれている。松本大学での10年間、全学部に所属した。教職センターでの9年間で最も幸せな時であった。論文しか書いたことがなかったが、授業実践報告をまとめ、新鮮な発見をした。学は“成りがたし”に尽き、研究は今後と思ったが、やめることにした。岳…登山0回。夫と息子たちがハマった。音楽…2つの市民オーケストラに所属した。ベートーベンの交響曲第1番だけ演奏したことがなかったが、県下4ステージ、超過クリア。

皆さま、お元気で!そして…“良い週末を!”(教職センター教授)

松本大学は原点

寄藤 晶子



在任中は教務・入試広報・学生・就職委員会のほか様々な場面で、多くの職員、教員の皆様から大学を作り・支える仕組みを教わりました。講義やゼミでは多くの個性豊かな学生たちから教育について鍛えられました。松本大学でのすべてが私を大学院生から大学教員に、社会人にしてくれました。これからは、観光ホスピタリティ学科とともにスタートした経験を誇りに、教育と研究活動に精進していきます。8年間、ありがとうございました。(観光ホスピタリティ学科専任講師)

ありがとうございました。

百武 愛子



2011年4月に人間健康学部健康栄養学科の助手として着任以来、短い間でしたが3年間大変お世話になりました。社会人としての経験が全くなく、学生のような私ですが、先生方、職員の方々、学生さん達に囲まれ、叱咤激励を頂きながら日々勉強をさせていただいた3年間でした。この場を借りて、この松本の地で出会った全ての方々から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(健康栄養学科助手)

長野(松本)にしながら故郷但馬のことを知るこの幸せ

観光ホスピタリティ学科専任講師 佐藤 哲郎

私は兵庫県北部にある朝来市(旧和田山町)出身である。朝来市で近年特に有名になったのが“天空の城”と称される史跡・竹田城跡です。来場者が予想以上に増え続けており(平成25年度は50万人を超えるようです)、週末等は入山規制もなされているとのこと。

私は個人的には「茶すり山古墳」をお薦めします。この古墳は5世紀前半の構造で全長約90メートルの大型円墳で畿内最大規模です。出土した副葬品等からも、埋葬された人物は当時の中央政権国家と強い結びつきがあった権力者の墓であろうとほぼ断定されています。ぜひ竹田城の観光のあとは茶すり山古墳ま

で足を運んでいただきたいです。

それはさておき、兵庫県北部は古くから但馬地方と呼ばれていて、周りを山々に囲まれ日本海側に位置しているため、但馬牛をはじめ松葉ガニ(ズワイガニ)やホタルイカなど山海の幸に恵まれた地域でもあります。

その中で“但馬の小京都”と呼ばれる豊岡市の出石(いずし)では出石そばが名物です。出石そばのルーツは、宝永3(1706)年に信濃・上田藩より国替えになった仙石政明がそば職人を連れてきたことに始まるとされています。幕末期には桂小五郎(木戸孝允)が出石に潜伏していたこともあるので、おそらく出石そ

ばを食べていたものと勝手に想像を膨らませています。

また、同じく豊岡市にある県立コウノトリの郷公園と地域が協働して、自然環境を整えながら飼育・増殖に取り組んでいるコウノトリが上田市や白馬村に飛来したとのニュースを昨年10月に知り、但馬から信州に行きついたコウノトリの姿を私自身と重ね合わせながら思わず感傷的になってしまいました。

このように、私は長野県民(松本市民)ですが、この地で生活しながらも故郷但馬の情報を知ることができる現在の環境に幸せを感じながら、これからも日々精進していければと考えています。

Information

2014オープンキャンパス 【途中参加・途中退出可】

次の日程でオープンキャンパスを行います。
高校生はもちろん、保護者や教員の方もぜひご参加ください。



●短期大学部限定【17フィールド体験ツアー】

【日時】4/13(日) 10:30~16:00(受付10:00~) 【内容】松商短大のフィールド体験、キャンパス見学ツアー、進路・入試・奨学金相談、保護者相談、ランチ無料体験 etc.

●松本大学・松商短期大学部

【日時】5/11(日) 6/15(日) 7/13(日) 8/3(日) 8/23(土) 9/20(土) 10:30~16:00(受付10:00~)

【内容】松本大学・松商短大概要説明、学科説明、ミニ講義、体験講座、トレーニングルーム体験、ランチ無料体験、キャンパス見学ツアー、個別相談(入試・授業・資格・就職・学生なんでも相談) etc.

無料シャトルバス運行(7/21,10/13の運行はありません)

長野県内<松本駅、長野駅、上田駅、佐久平駅、岡谷駅、下諏訪駅、茅野駅、伊那(上伊那農業高校前)、飯田駅>・山梨県<甲府駅、小淵沢駅>、新潟県<新潟駅、高田駅>からシャトルバス運行 ※松本駅以外要予約

●特別授業公開(全学部・学科)

【日時】7/21(祝) 10/13(祝)

【内容】受験生の皆さんに本学への理解を深めていただくために通常の授業を公開します。

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-50-7200

硬式野球部 公式戦の日程

関甲新学生野球連盟
春季2部リーグ戦

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	5	土	松本大学 - 新潟大学	12:30	松本大学
		6	日	新潟大学 - 松本大学	10:00	
第3節	4	19	土	関東学園大学 - 松本大学	11:30	松本市営球場
		20	日	松本大学 - 関東学園大学	9:00	
第4節	4	26	土	宇都宮大学 - 松本大学	10:00	関東学園大学
		27	日	松本大学 - 宇都宮大学	12:30	
第5節	5	3	土	松本大学 - 茨城大学	12:30	松本大学
		4	日	茨城大学 - 松本大学	10:00	
第7節	5	17	土	松本大学 - 埼玉大学	12:30	平成国際大学
		18	日	埼玉大学 - 松本大学	10:00	

※球場が変更になる場合があります。
※各節、1勝1敗の場合は、その翌日試合を行います。

編集後記

新県立大学の問題で終始した1年間であった。3月11日の報道で見た大震災からの復興を待ちわびている人々の事を考えると、限りある資財(県民の税金や国からの交付金)から、たった数百人の学生のために100億円以上も費やしているのか疑問だ。また、長野県はこの冬かつてない大雪に見舞われ、農業の存続が危ぶまれるほどの被害を受けた農家も多いと聞いている。県からの支援金はどの程度か?今こうした差し迫った県民の悲鳴に耳を傾けることが県としての最重要課題ではないのかと、松本大学の職員だからということだけではなく、長野県民として強く思う。

この春、松本大学を巣立つ卒業生には松本大学卒業という誇りを持ち、ノーブルゴールを追求して、社会で活躍してほしいと願っている。
(記・入試広報室長 中村文重)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
<http://www.matsumoto-u.ac.jp/>